

■ 概況

11/7~11/13のNYMEX・WTIは、56.80~57.24ドルの範囲で推移した。

11月14日は、一日遅れの米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で原油が前週末比220万バレル増・ガソリンが同90万バレル増とともに市場予想を上回る3週連続の積み増しの報告があったことから、反落した。12月限終値は前日比0.35ドル安の56.77ドル。

週末15日は、国際エネルギー機関(IEA)が月報で、来年の非OPEC産油量が米国を中心に230万b/d増加する一方、世界の需要量の増加は120万b/dに止まると予想したことから、売りが先行したが、米政府高官が相次いで、米中貿易協議の「第一段階」の合意に楽観的見通しを示したことから、買い戻され反発した。また、ペーカー・ヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は674基で前週比10基減と4週連続で減少したことも上昇要因となった。12月限終値は前日比0.95ドル高の57.72ドル。

週明け18日は、米中貿易協議の合意条件をめぐる米中の関係が週末電話協議を行ったが、進展はなく、中国政府筋は第一段階合意に悲観的であるとの報道があり、反落した。12月限終値は前週末比0.67ドル安の57.05ドル。

19日は、12月上旬のOPECプラスの閣僚級会合を前に、関係筋の話として、ロシアは協調減産の延長に参加しても減産幅の拡大に応じることはないとの報道があり、大幅続落した。また、史上最高値を更新して始まった米国株式市場が、一転して反落したことも、投資家心理を冷やした。12月限終値は前日比1.84ドル安の55.21ドル。

20日は、米国エネルギー情報局(EIA)の原油在庫週報で、前週比140万バレル増と市場予測をわずかながら下回ったこと

と、プーチン露大統領が、協調減産への協力姿勢を示したこと等から大幅に反発した。12月限の終値は前日比1.90ドル高の57.11ドル。

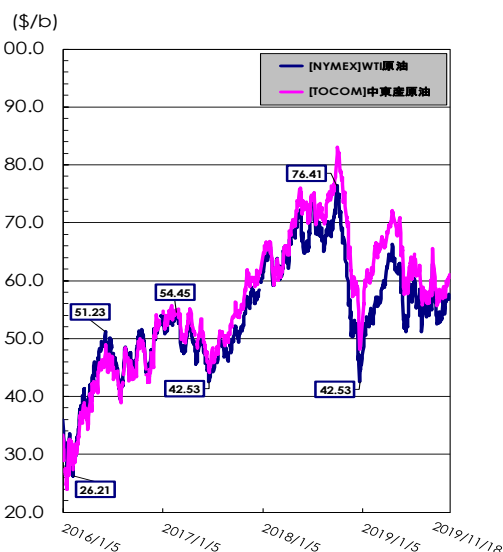
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)は11月7日~13日の間60.50~61.80ドルの範囲で推移した。11月14日62.20ドル、15日62.10ドル、18日62.70ドル、19日61.80ドル、20日60.50ドルで推移した。

為替は11月7日~13日の間108.93~109.39円の範囲で推移した。11月14日108.81円、15日108.62円、18日108.82円、19日108.55円、20日108.61円で推移した。

財務省が11月20日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、10月下旬の原油輸入平均CIF価格は、44,356円/klで、前旬比218円高、ドル建て65.35ドルで前旬比0.11ドル高。為替レートは1ドル/107.91円だった。また、同日発表の貿易統計(速報・旬間)によると、10月月間の原油輸入平均CIF価格は、44,087円/klで、前旬比956円高、ドル建て65.02ドルで前旬比0.72ドル高。為替レートは1ドル/107.80円だった。

そのような中で、11月18日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値上がり、軽油は同0.1円の値上がり、灯油は同横ばい(18㍲ベース)だった。ガソリン・軽油が3週連続の値上がり、灯油は4週連続の横ばいだった。この週(11月第3週)の原油コストは値上がりで、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値上げとなった。

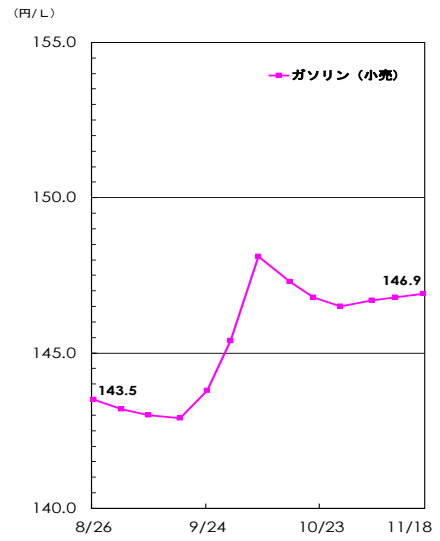
原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/10 ~ 11/16	3,350	▲ 43	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	85.5	▲ 1.1	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	11/16	11,118	▼ -995	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/18	61.11	▲ 1.74	▼ -4.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/18	57.05	▲ 0.19	▲ 0.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月下旬	65.35	▲ 0.11	▼ -13.84
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,356	▲ 218	▼ -11,878
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	107.91	▼ -0.36	▲ 4.99
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/18	109.82	▲ 0.34	▲ 3.91



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/10 ~ 11/16	876 ▼ -75	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	791 ▼ -28	▼ -
	輸出	"	76 ▼ -28	▲ -
	在庫	11/16	1,555 ▲ 9	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/12 ~ 11/18	59.0 ▲ 0.6	▼ -5.8
	先物 [期近物/終値]	11/12 ~ 11/18	55.5 ▲ 0.9	▼ -1.7
	(TOCOM/中部)	11/18	57.5 ▲ 1.5	▼ -2.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/18	146.9 ▲ 0.1	▼ -9.0

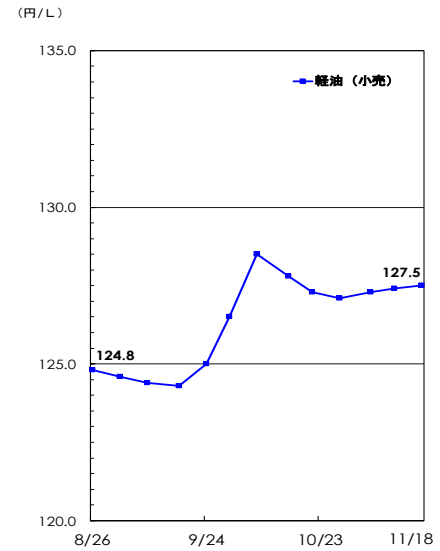
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

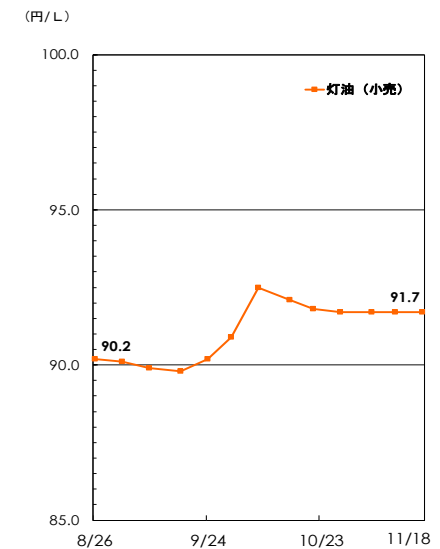
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/10 ~ 11/16	812 ▲ 28	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	618 ▲ 21	▼ -
	輸出	"	78 ▼ -68	▼ -
	在庫	11/16	1,516 ▲ 116	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/12 ~ 11/18	61.7 ▲ 0.8	▼ -7.2
	先物 [期近物/終値]	11/12 ~ 11/18	63.5 ▲ 0.2	▼ -5.1
	(TOCOM/中部)	11/18	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/18	127.5 ▲ 0.1	▼ -7.7

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/10 ~ 11/16	312 ▲ 31	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	316 ▲ 88	▲ -
	輸出	"	43 ▲ 22	▲ -
	在庫	11/16	2,803 ▼ -47	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/12 ~ 11/18	61.4 ▲ 0.8	▼ -6.2
	先物 [期近物/終値]	11/12 ~ 11/18	59.7 ▲ 0.7	▼ -4.5
	(TOCOM/中部)	11/18	62.3 ▲ 0.8	▼ -2.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/18	91.7 ▲ 0.0	▼ -6.4



■ 関連情報

1 海外/原油

11月20日のNYMEX市場WTI原油は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の原油在庫週報で、前週比140万バレル増と市場予測(同150万バレル増)をわずかながら下回ったこと、プーチン露大統領が、OPECとロシアには、石油市場安定維持と予測可能性確保の共通目標があり、協調減産合意の下で協力を維持すると発言したこと、前日、米海軍空母打撃群がペルシャ湾に入ったこと、前日安値の反動で安値拾いの買いが入ったこと等から、大幅に反発した。12月限の終値は前日比1.90ドル高の57.11ドル、1月限の終値は同1.66ドル高の57.01ドル。

EIAによると、11月18日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.3セント値下がりの1ガロン2.592ドル(75.1円/㍗)、ディーゼルは同0.1セント値上がりの3.074ドル(89.1円/㍗)となった。ガソリンは3週ぶりの値下がり、ディーゼルは2週連続の値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年11月10日～11月16日に休止したトッパー能力は22.5万バレル/日で、前週に対して6万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は335万klと、前週に比べ4.3万kl増加。前年に対しては27.7万klの減少。トッパー稼働率は85.5%と前週に対して1.1ポイントの増加、前年に対しては7.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/7.8%減、ジェット/4.5%減、灯油/10.8%増、軽油/3.5%増、A重油/9.1%減、C重油/8.2%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は7.8万kl(前週比6.8万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、軽油、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は79.1万kl(対前週3.4%減)と2週振りで減少となり、13週連続で100万klを下回った。ジェット19.9万kl(対前週351.2%増)、灯油31.6万kl(対前週38.5%増)、軽油61.8万kl(対前週3.4%増)、A重油17.6万kl(対前週

4.1%減)、C重油13.8万kl(対前週12.7%増)。

(単位: 千KL)

	今週 (11/10 ~ 11/16)	前週 (11/3 ~ 11/9)	前週比
ガソリン	791	819	▼ -28 (-3%)
ジェット燃料	199	44	▲ 155 (352%)
灯油	316	228	▲ 88 (39%)
軽油	618	597	▲ 21 (4%)
A重油	176	183	▼ -7 (-4%)
C重油	138	123	▲ 15 (12%)
合 計	2,238	1,994	▲ 244 (12%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月16日時点の在庫は、ガソリン、軽油、A重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、全ての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは155.5万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては27.4万kl少ない。

灯油は280.3万kl、前週差4.7万kl減。前年に対しては5.4万kl少ない。

軽油は151.6万kl、前週差11.6万kl増。前年に対しては5.5万kl少ない。

A重油は74.7万kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては11万kl少ない。

C重油は201.2万kl、前週差0.5万kl減。前年に対しては6.7万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (11/16)	前週 (11/9)	前週比
ガソリン	1,555	1,546	▲ 9 (1%)
ジェット燃料	871	950	▼ -79 (-8%)
灯油	2,803	2,850	▼ -47 (-2%)
軽油	1,516	1,400	▲ 116 (8%)
A重油	747	740	▲ 7 (1%)
C重油	2,012	2,017	▼ -5 (-0%)
合 計	9,504	9,503	▲ 1 (0.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月12日～18日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替レートはわずかに円高で、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、11月12日～18日の間、ガソリン112～113円台で値上がり後ほぼ横ばい、軽油60～61円台で値上がり後横ばい、灯油60～61円台で値上がり後ほぼ横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン114円台でほぼ横ばい、軽油63～64円台で値上がり、灯油58円台で出入り

後値を戻して推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン108～109円台で出入り後値上がり、軽油63円台で出入り後わずかに値上がり、灯油59円台で出入り後わずかに値上がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社0.5円の値上がりとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月12日～18日の製品スポット市況は、11月5日～11日平均と比べ、海上の灯油を除いて、他の油種・取引で値上がりした。

直近の陸上スポット価格(11/12～11/18千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は0.8円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.5円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.9円の値上がり、灯油は0.7円の値上がり、軽油は0.2円の値上がりだった。

11月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値上げとなった。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (11/12～11/18)	前週 (11/5～11/11)	前週比
	レギュラー	59.0	58.4	▲ 0.6
	灯油	61.4	60.6	▲ 0.8
	軽油	61.7	60.9	▲ 0.8

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	[期近物/終値] [平均]	今週 (11/12～11/18)	前週 (11/5～11/11)	前週比
	レギュラー	55.5	54.6	▲ 0.9
	灯油	59.7	59.0	▲ 0.7
	軽油	63.5	63.3	▲ 0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/12～11/18実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 0.6	▲ 0.9	▲ 0.8	
灯油	▲ 0.8	▲ 0.7	▲ 0.8	
軽油	▲ 0.8	▲ 0.2	▲ 0.5	
A重油	▲ 1.1			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月18日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の146.9円、軽油は同0.1円高の127.5円、灯油は18ℓベースで同横ばいの1,650円(1ℓベースでは同横ばいの91.7円)。ガソリン・軽油は、3週連続の値上がりで、灯油は4週連続の横ばいだった。ガソリンは、都道府県別には、値上がりが24府県、横ばいが11都県、値下がりが12道県となった。全国最安値は徳島県の140.7円(前週比0.1円高)、その次に安いのは、埼玉県の141.9円(同横ばい)、最高値は長崎県の157.1円(同0.2円高)。最も値上がりしたのは1.6円高の滋賀県(143.6円)、横ばいは鹿児島県等11都県、最も値下がりしたのは0.8円安の兵庫県(145.4円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上げとなった。今週は、原油価格は値上がりし、為替レートはわずかに円高で、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値上がりとなった。次週(11月25日)のガソリン・灯油の小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)			直近高値	
小 売 価 格	今週 (11/18)	前週 (11/11)	前週比			
	レギュラー	146.9	146.8	▲ 0.1	08/8/4	185.1
	灯油	91.7	91.7	→ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	127.5	127.4	▲ 0.1	08/8/4	167.4

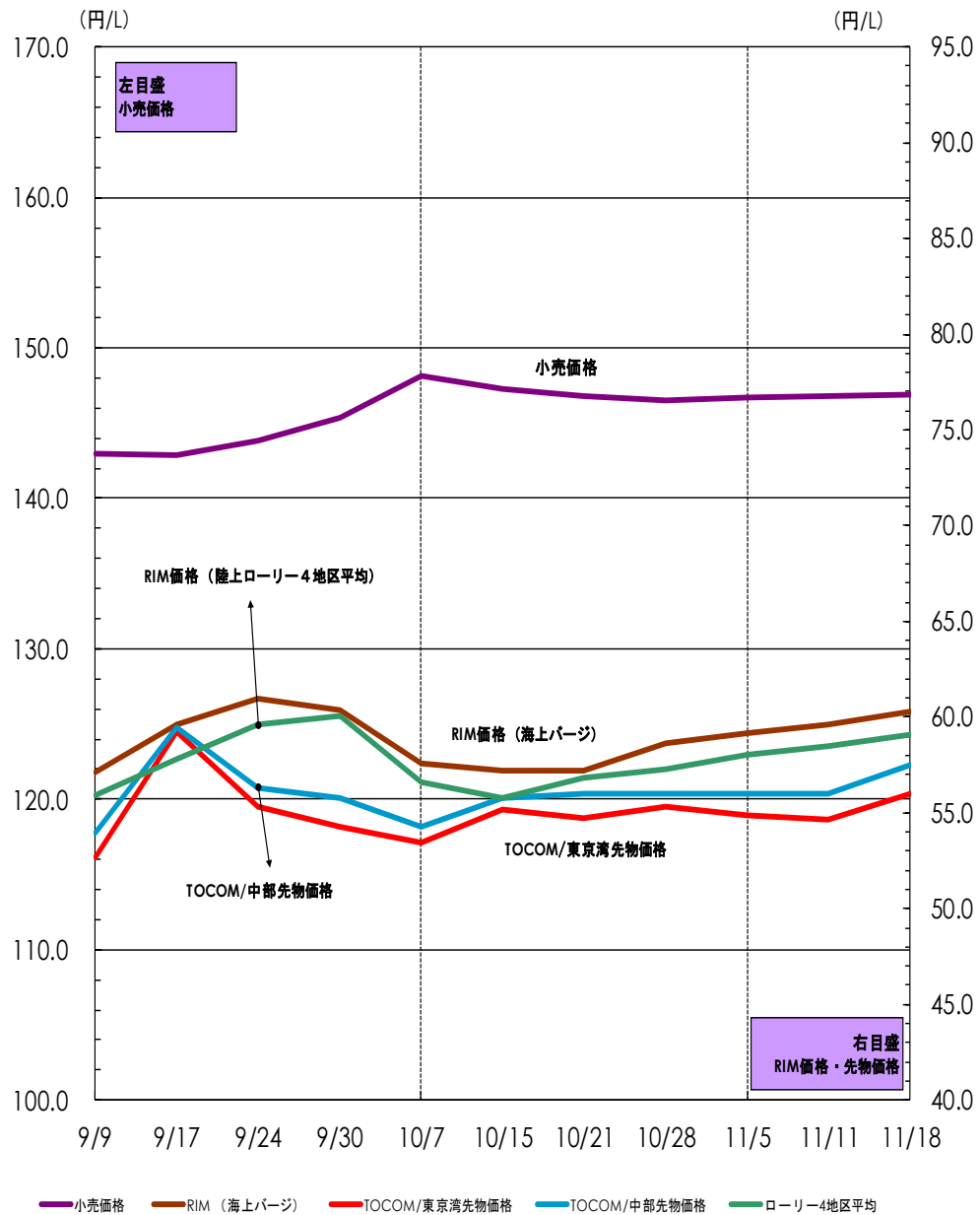
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/9/9 ~ 2019/11/18)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第33号)の公表は、11/29(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成31年3月末現在)は、7月31日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。